

科 目 名

応用薬理学 Applied Pharmacology

3年 後期 1単位 必修

徳 富 直 史

概 要

疾患と薬物治療は裏表の関係にある。応用薬理学では、下記テーマを中心に、適正かつ最良の薬物治療を行うために薬剤師に求められる疾患の理解と処方薬服用による症状改善のしくみについて学び、学習目標の達成を目指す。

授業計画

テ ー マ

1. 循環器系疾患治療薬の処方とその薬理学的背景：C13(2)-4-1,2、C14(2)-2-2,3,4,5
2. 消化器系疾患治療薬の処方とその薬理学的背景：C13(3)-2-1、C14(1)-4-2,3
3. 呼吸器系疾患治療薬の処方とその薬理学的背景：C13(2)-5-3、C14(3)-3-2
4. 内分泌系疾患治療薬の処方とその薬理学的背景：C14(3)-4-2
5. 中枢神経疾患治療薬の処方とその薬理学的背景：C13(2)-1-2,5、C14(4)-1-2,3

学習目標

- 1) 疾患発症のしくみと薬の作用点（情報伝達分子）について説明できる。
- 2) 薬の効果に影響を及ぼす因子について説明できる。
- 3) 情報伝達分子の遺伝子多形や、個人最適化治療について説明できる。
- 4) 代表的医薬品を用いた処方例の薬理学的背景について説明できる。
- 5) 処方箋の解析等、習得した知識の医療現場における役立て方について説明できる。

授業方法

講義の形式で行い、適宜プリントや視聴覚教材を利用する。

評価方法

定期試験の結果と授業態度から総合的に評価する。場合によりレポートを参考にする。

教 材

教科書：重信弘毅、石井邦雄 編「パートナー薬理学」南江堂
参考書：百瀬弥寿徳、楠本敬太郎 編「疾病薬学」みみずく社
赤池昭紀 他共著「疾患別薬理学」廣川書店